



ホロカルに設置の自動販売機

かけませんが、販売場所を増やすことについてお聞きします。

**答 弁** 幌延町の観光資源のひとつであるブルーポピーや町の花に指定しているテシオコザクラを活用した独自商品は、その珍しさが話題となって幌延町を多くの人にPRできる可能性があります。

よいアイデアだと思うので、商品開発の参考にさせていただきます。

地域特産品の販売場所ですがお酒や秘境駅グッズなどの商品は、町内の各商店で取扱っています。また、

幌延に来られない人も特産品が購入できるよう、ホロカルのホームページを開いています。また、「ふるさと納税」という制度を活用したまちのPRも行っています。



寺澤 空七さん

**質 問** トナカイ観光牧場は、観光客がたくさん訪れる場所だと思います。

様々な障害の人でも利用しやすいように、オストメイト対応トイレや触知図案内板などの整備をしてはどうでしょうか。

**答 弁** 公共施設は多種多様な人が訪れる場所ですから、バリアフリー化やユニバーサルデザインを進めることはとても大事だと思います。

トナカイ観光牧場は、幌延町の顔となる観光施設で、

施設がきちんと整備されていることは、利用者の満足度向上や来場者の増加にもつながりますので、トイレや案内板の整備も十分検討し、今の時代に合っているか確認し、トナカイ観光牧場施設全体の環境整備を図っていききたいと思います。



寺本 晴陽さん

**質 問** 現在、日本では結婚をする人が減ってきており、理由の一つとして働き方や生活の仕方の価値観の違い、両性の思い込みなど男女差別が関わっていることがわかりました。

幌延町民が持っているジェンダー意識をアンケート等で知ることが重要と考えていますが、町長はどう考えますか。

**答 弁** 幌延町においても「幌延町特定事業主行動計

画」を作り、雇用機会の均等や能力に応じた職責配置、町職員の育児休業取得や勤務時間の適正化、各種休暇の取得促進、家事と仕事の両立支援などに取り組んでいます。

役場の中だけでなく、認定こども園の充実、子育て支援など、女性の社会進出、女性や男性ということに問わず、誰もが生きがいをもって、自分らしく生きられる地域社会を目指しています。

町としてもいろいろな機会をとらえて、啓発活動を行っていききたいと思います。



中嶋 愛依さん

**質 問** 私は男だから、女だからとの決め付けで嫌な

思いをしたことがあります。SDGsの17つの国際目

標の一つに「ジェンダー平等を実現しよう」と設定されるなど、男女の決めつけを無くすことが求められています。幌延町でも啓発ポスターや、告知端末での呼びかけなど、町民一人ひとりが男女の決めつけや固定観念をなくしていく取組をすることで、誰もが住みやすい環境が整うのではないかと考えます。

**答 弁** ジェンダーに関することは、いろいろな機会をとらえて、啓発活動をしていききたいと思います。

男女関係なく、仕事や家事、育児や社会活動の中で自分らしく、望む生き方ができる社会づくりが大事だと思います。



濱下 透空 君

**質 問** 国際交流施設の多目的ホールは音楽活動専用